

自己評価報告書

令和3年3月

専修学校 徳島県美容学校

I 学校の現状

1. 学校名

専修学校徳島県美容学校

2. 所在地

徳島県徳島市佐古二番町3-5

3. 沿革

昭和30年 9月 私立各種学校徳島高等美容学校として認可
昭和30年10月 厚生大臣指定徳島県美容師養成施設として夜間課程、通信課程を創立
昭和33年12月 校舎移転
昭和34年 3月 養成所廃止
徳島県美容業環境衛生同業組合立徳島高等美容学校設立
昭和52年 6月 校舎移転
昭和57年 4月 昼間課程設立、夜間課程廃止
昭和61年 1月 校舎改装
平成10年 新制度に変更
平成12年 4月 専修学校に変更
平成22年 4月 新校舎設立

4. 学科の構成

衛生課程 美容科
衛生課程 美容ダブルライセンス科
衛生課程 別科 通信課程 美容科
衛生課程 別科 通信課程 美容ダブルライセンス科

5. 学生数及び教員の数

衛生課程 学生総数48名
衛生課程 別科 学生総数74名

II. 学校の理念、教育目標

教育理念

「笑顔と感謝の心」本校では、この言葉を重んじ、高い知識と技術のみならず、心ある人材を育成し、社会に貢献することを使命と考え、その基本姿勢を学則に記している。

(学則)

第1条 本校は教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、人格の完成と、平和的な国家及び社会の形成者として、勤労と責任を重んじ自主的精神に充ちたる心身共に健康なる生徒を育成することを目指し、社会人としての教養と、近代的な感覚と、専門的な知識と技術を修得せしめ特に美容技術の研究研磨並びに衛生知識の向上をはかるを目的とする。

教育目標

・本校の教育理念に基づき、笑顔と感謝の心を忘れない、人として魅力ある人間性豊かな人材を育成する。

III. 令和3年度の重点目標

目標

国家試験合格率アップを目指す

社会人として必要な基礎知識や一般常識を身に付けるると共に、美容師として必要な技術をしっかりと身に付ける。

計画（目標達成の為の具体的計画）

礼儀をしっかりと身に付けた美容師の育成を図る

早い段階で将来像についてしっかりと考え、明確に自分の就職について目標を立てる。目標達成の為に必要な知識と技術は何なのかを自ら考え修得できるようにする。

学生の目標を明確にし、国家試験合格や大会に対し、積極的に取り組ませる。

IV. 評価項目別評価報告

(1) 教育理念・目標

適切… 4, ほぼ適切… 3, やや適切… 2, 不適切… 1

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--|----|--|--|---|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 4 | 理念、目的ははっきりとしている。 | 目標の認識と周知の徹底。理念や目標が、現状とかけ離れてはいないかなど、毎年しっかりと話し合い、見極めていくことが必要。 | 定期的に理念、目的を見直し、社会にあった人材育成ができるよう目標を定める。 |
| ・学校における職業教育の特色を定めているか | 4 | 国家試験および大会に重点を置いている傾向がある。 | 学校が育てたい人材と学生自身がなりたい人物像、美容所が欲しい人材をはっきりと把握し、導いていくことが大切。 | 組合立である特徴を活かし、企業にもっと協力を仰ぎ、当校の特色を広め、学生自身に未来構想を創造させられるよう取り組みたい。 |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 | 学生自身が、将来を身近なものとして捉えられていないところがある。 | ニーズの移り変わりが早く、また多様化している為、技術知識共に専任教員だけでは追いつかない。ニーズ、流行に敏感な業界に情報開示し、協力を得られるようにしていく必要がある。 | 組合・学校の連携を図り授業や就職活動に取り入れる。今、社会から学校に期待されているものは何か、これからの学校はどの方向に向かっていくのか、現状を把握し、将来構想を練っていく必要がある。 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか | 3 | パンフレットや学校ガイダンスで周知を行っている。また、説明会などでも学生、保護者向けに周知を行っている。 | 理念、目的については、昨年よりもアピールをして周知を行っている。説明会でも必ず周知をしているが、まだまだの感がある。HPなども利用し、もっと浸透させていかなければならない。 | 引き続き、HPやパンフレット、説明会等での周知を行い、浸透させていく必要がある。人材育成は、企業が、特色や将来構想は、学生や保護者が知りたいところだと思うので、しっかりと情報発信し、周知徹底を図る。 |
| ・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 | 各教科の目標は定められているが、業界のニーズの把握面が少し弱い。 | 業界と学校との更なる協力が必要。校内だけでは、どうしても国家試験対策が先に立ちがち。もちろんそれが一番なのだが、もっと外の意見を取り入れ、今必要な知識と技術は何かを把握しなければならない。 | 業界との連携を深め、今必要とされている技術や知識、人物像などを把握し目標を定める。各教科の中で、その目標達成の為に必要なものは何かを見極めカリキュラムに組み込む必要がある。 |

(2) 学校運営

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--|----|--|---|---|
| <p>・目的に沿った運営方針が策定され、それに沿った事業計画が策定されているか</p> | 3 | <p>年間計画～週間計画など、先を見通しての計画がしっかり立てられていない。</p> | <p>計画の曖昧さが突発的な変更に対応しきれない原因のひとつ。しっかりした計画をたてることが目下の課題。</p> | <p>大まかな計画は毎年大きくは変わらない。年度初めに年間計画をしっかり立て、行き当たりばったりの運営にならないようにする。</p> |
| <p>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか</p> | 3 | <p>組織としてはしっかりとしているが、様々な決定事項、判断に時間を擁してしまうことがある。</p> | <p>決定事項の遂行の弱さ、遅延がみられる。判断、決定、実行の一連の流れをもっと早く行えるようにする必要がある。</p> | <p>提案～決定～実行を素早く行う。一度でうまくはいかないのが当たり前なので、何度も繰り返し洗練させていく。</p> |
| <p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p> | 3 | <p>概ね情報公開は適切に行えている。</p> | <p>HPでの情報発信はその都度行えている。</p> | <p>現在では、HPがメインとなっているが、イベント等がある度に情報発信は行っている。今後も、発信はこまめに行う。</p> |
| <p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p> | 3 | <p>業務の効率化については、もっと改善の余地がある。</p> | <p>業務をシステム化することにより、もっと時間を有効に使うことが可能となる。まだまだ、無駄な作業が多くみられる。</p> | <p>作業をより少なくすることで、不備や間違いも少なくすることができる。どうすれば、効率的に業務が進んでいくか、考えシステム化をする。また、それができる人材を育てる。</p> |

(3) 教育活動

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--|----|---|--|--|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 | 大まかな計画は立てられている。 | 年間計画～週間計画など、先を見通しての計画が立て切れていない場合がある。 | 年間計画、そして学期、月間、週間等詳細な計画を立てる。途中で予期せぬことやイベント等入るなど変更を余儀なくされることもあるが、計画を立てておけば変更もしやすい。 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3 | 卒業までに修得すべき技術、知識の目標はしっかりと立てている。また、その為の学習時間も確保できている。 | 学校内のみの授業であり、視野が広がっていない。社会のニーズを踏まえた教育環境ではない。 | 2年間で目指すレベルの把握はできている。また、その為の学習時間も明確となっているが、イベント等での授業変更もよくあるので、柔軟な対応が必要。インターンシップを取り入れ、刺激を与えることも必要。 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3 | 学科毎に各担当教員がカリキュラムを立てている。大きな流れと小刻みな目標を把握し、それぞれの教科間での連携もとるようにしている。 | 副校長が主となり、学科のカリキュラムを年間を通し、また学科毎に連携をとりながら編成している。 | 年間計画の中で、学科毎にいつどのタイミングで授業を入れるか考えられているが、一部偏りがみられる部分もあるので、国家試験を見据えバランスよくカリキュラムを組めるようにする。 |
| ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 3 | 毎年、定期的に会議を開き、カリキュラムの編成について話し合っている。 | 校内のみで片づけることなく、外部の団体と意見交換を行いながらカリキュラムの編成を行っているが、もっと外部からの意見を頻繁に聞く機会を持つてもいいと思われる。 | 現在必要とされる技術や人物像がどのようなものなのか、外部の意見をどんどんとり入れ、可能なものから授業に取り入れられるようにしていく。 |

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--|----|---|--|--|
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 | 学生にアンケートをとるなどして、学校評価ができるようにしている。また保護者から直接お話を聞く機会等に評価を頂くことがあるが、システムとしてはっきりとこういう方法で評価を得る。といった決まった方法が確立されていない。 | 学生から、年度途中でアンケートを取っているが、卒業後など何度か取る必要がある。 | 年に何度か、例えば1年生、2年生、卒業生等アンケートを取り授業への評価や、希望などをもらう。それをもとに教職員の中で、授業等の見直しを行う。 |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 | 単位認定や卒業判定は、学則に定められており、教員と校長との話し合いを経て、最終決定をしている | 成績評価は、各科目ごとにテストを実施している。また、月ごとや学期ごとに実技審査も行い、学校長を含め成績や進捗状況を把握している。 | 各科目ごとにこまめにテストを行っている。また、進級、卒業判定は、校長をはじめ教員全員で行い、出席状況、試験結果、補講状況を踏まえ行っている。日数不足の学生には、できるだけ早めに対策をとり、全員が補講受けずに済むようにしていく必要がある。 |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3 | 国家試験は学校の主な目標となっており、それを目指したカリキュラムになっている。また、それ以外の技術も体系的にカリキュラムに取り入れられている。 | 国家試験を目標としたカリキュラムとなっており、それを目指した指導を行っているが、いざ試験を受けるとどうしても合格に届かない学生がいる。国家試験間近では、対策が間に合わないので、早めの対処を行う必要がある。 | こまめにテスト等を行い、理解度や上達度の把握を早い段階で行えるようにする。また、はっきりとした到達目標をたて、目標を達成しているかどうかを教員が確認する。目標に達しないときは、早め早めに対応していく。 |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 | 組合立であることから、外部講師も多彩な人材を確保できている。常任教員は、ベテラン教員がほとんどである。 | 業界との密接性をもっと取り入れたい。教員の意識向上、指導力育成が必要。業界から離れて久しい為、新しい技術を習得する機会が少ない。 | 学生のみならず、教員の意識向上、技術の向上を図りたい。どんどん移り変わる需要に追いつける人材を育成する為には、まず教員自らが向上すべく講習などに参加する必要がある。社会のニーズの把握とそれに対応する教育ができるよう、美容師との交流をもっと密にとったり、インターンシップ等で美容所の現状を知る機会を増やす。 |

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--|----|--|--|---|
| <p>・関連分野における業界等との連携に於いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p> | 4 | <p>業界団体の役員に教育改革を依頼し、週2日学校に来て頂き会議を行っている。</p> | <p>業界との連携は、常にとれる状態である。講師も県外から呼ぶことが可能であるが、カリキュラムの中にうまく取り入れていかなければ、技術が次へと繋がっていかない。</p> | <p>業界との連携を今後とも密にとり、外部講師をうまくカリキュラムの中にとり入れる。</p> |
| <p>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか</p> | 4 | <p>コロナウイルスの為、今年は研修会や講習会に参加できなかったが、遠隔講習などには参加できている。</p> | <p>国家試験の対策に重点を置いているが、そればかりでは、いざ就職した時に必要な人材とはならない。今、美容業界ではどのような技術が開発されており、どのような人材を必要としているのか把握しなければならない。</p> | <p>技術修得および技術の伝え方、指導方法まで修得する。また、修得した技術や知識は、校内で他の教員にも校内講習会等を開き伝達していく。</p> |

(4) 学修成果

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|-------------------|----|--|---|---|
| ・就職率の向上が図られているか | 4 | 就職率は大変良い。求人は毎年多数の依頼があり、引く手あまたである。本校が組合立である特徴を考えると、県内就職については、何の問題もなく就職することが可能である。また、県外からの求人も多く、行くところがない。ということはまずない。 | 求人率は、100%を達成している。業界全体を見ても、美容師不足であり、常に求人がある状態である。但し、入社をしても早々に辞めてしまう学生がいることが課題。希望と現実とのギャップや企業側の体制も含め、せつかく就職したがすぐに退職になった。という状況を改善していかなければならない。 | 毎年6月～7月頃に、就職ガイダンスを開催。企業と学生が直接話をする場を設け、お互いの希望や状況を話し合えるようにしているが、参加企業が多くなると、あまり長い時間話ができなかつたり、個別ブースを設けられなかつたりするので、何回かに分けるか、会場を広くするなどの工夫が必要。 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 4 | 国家試験やSBSなどの資格試験前には、事前講習を行うなど対策は取っている。通信生は、半年前からスクーリングの日数を増すなど対策をしている。 | 在学中に取得する資格が就職先で活きない。SBS認定制度が始まって10年になるが、組合サロンには浸透していない為、SBS資格の意味をなしていない。国家試験合格率が低い。 | 資格取得者には、就職及び就労に活かされるよう、それがどのようなしなくてはいいのか等サロンに周知する。国家試験合格率100%を目指す。国家試験のどの分野が不得意なのかなど、個別に分析し対策を取る。 |
| ・退学率の低減が図られているか | 4 | 担任制を導入し、何かあった時でも相談しやすい環境を作っているが、毎年学校をやめてしまう学生がいる。在学中に他にやりたいことができる学生もいるが、人間関係が原因で辞めてしまう学生もいる。 | 些細な事でも相談しやすいよう担任を置いているが、なかなか相談できずに一人で悩みを抱え込んでしまう学生もいる。人間関係で不登校になる学生もいるが、原因がよく分からない場合も多い。本人、保護者との連携をうまくとりながら、退学者をできるだけ減らしたい。 | 昼間課程で学校を辞めたいという学生には、通信生への転入も進めている。昼間生から通信生へ変わった学生は、比較的卒業まで通うことができている。できるだけ、退学という道を選ばずに済むように対策を取っていく。 |

(5) 学生支援

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--------------------------|----|--|---|---|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 | 就職については、十分に対応できる。進路、進学については、副校長と2年生担任が協力し、支援していく体制が整っている。 | もともと組合立の学校の為、企業、業界との連携は常に行えている。また産学連携就職事業を行っているので、支援体制は万全である。 | 県内求人については、会社の状況もよく分かるので案内がしやすい。また、産学連携事業での県内求人は、福利厚生もしっかりしており、信用もあるので、学生には進めたい企業である。コロナの為、県外就職を希望する学生はZOOM等の遠隔での面接が増えている。WI-FIの設備も整え、学生の就職のサポートをする体制は整っているといえる。 |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか | 4 | 教員への相談がしやすいようになっている。クラスごとに担任を置く、担任制をとっているので、担任に相談してもよいし、他の教員に相談をしてもよいようになっている。 | 現段階では、相談体制は十分に取れている。 | 今後とも、気軽に教職員に相談できる体制を維持していく。学生相談室などを設けて、就職・奨学金・学校生活に対する個人面談を実施する。 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3 | 学校独自の支援事業はないが、日本学生支援機構に対応している。また、分割での入金にも対応している。 | 入学時0円サポートを実施しており、本来入学時に支払うべき授業料などを入学後、学生支援機構に申込み、それが入ってからの支払いに対応している。そうでない学生も一度の支払いが困難な場合は、相談により分割対応している。 | 一括納入ができない学生が多く、分割での支払いが多い。2021年度からは、もともと3分割で支払う方法に変更した。 |

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|-----------------|----|---|--|---|
| ・保護者と適切に連携しているか | 4 | 学校側が気になる学生の場合、様子をみながら保護者へ連絡がとれる体制になっている。また、保護者の方からの問い合わせにも随時対応しており、連携はとれている。 | その時々状況により、保護者への連絡を行っている。日頃から学校、学生、保護者間の連携を強化し、何かの時にはスムーズに相談、報告ができるようにしておく必要がある。 また、学校の方針等を入学説明会やその他相談がある時に理解して頂き、家庭内でのサポートをお願いすることもひとつである。 | オープンキャンパスや入学説明会、入学式に出席する保護者が年々増えている。これをよい機会ととらえ学校の理念や教育方針を説明し、理解して頂く。また、学校生活の中での学生の問題などは、できるだけ小さなうちに保護者にも連絡し、連携をとりながら学生を支えていく。 |
| ・卒業生への支援体制はあるか | 4 | 卒業後、離職してしまい再就職先を探す場合などにも、学校へ相談に来れるようになっている。また、組合立の為、再就職先も探しやすくなっている。何年か後に自立開業する場合も、相談に応じれるようになっており、融資の申し込みやその他開業支援、技術修得の為の講習申込など、何にでも対応できるようになっている。 | 卒業後の様々な相談について、いつでもサポートできる体制になっている。しかし、全員が学校へ相談に来るわけではないので、卒業時に、何かの時には学校へ気軽に相談に来よう伝え、学校は卒業後も相談先の一つであることを認識させる。離職後の就職先案内などもできるので、できるだけ卒業後の活動状況が把握できるよう、連携は取っておく必要がある。また、早期離職をできるだけ無くす為、卒業生の話をよく聞くなど情報収集も怠らないようにすることが大切である。 | 卒業生の支援は、再就職、起業、従業員募集など様々な面で支援していく。また、仕事の状況など後輩に伝える機会が作れば、後輩たちの就職活動にも大いに役立ち、また、就職先との見解の相違なども減らすこともできる上、卒業生の活躍状況も把握できるので、就職説明会などそういう機会を設ける。 |

(6) 教育環境

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|-----------------------------------|----|---|---|--|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 | 施設、設備とも教育上、十分に整っているが、収納が少ない。 | 収納スペースが少ない。 学生のロッカーが小さく、荷物が入りきらない。 ウィッグを置いておくスペースがない。 | 特に問題はないが、ロッカーをもう少し大きくしたい。ショーケース等の収納場所があれば良い。 |
| ・防災に対する体制は整備されているか | 4 | 毎年防災訓練をしている。消防署の方に来ていただき、避難訓練や消火器の使い方を教えて頂いている。 | 津波や河川決壊、土砂崩れの際の防災訓練の規程を作成したので、その訓練を行わなければならない。 | 防災訓練を毎年春に行っているため、消防署と連携をして、今年も行いたい。 |

(7) 学生の受け入れ募集

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|------------------------------|----|---|--|---|
| ・学生募集活動は、適正に行われているか | 4 | 高校に訪問し、進学指導の先生と話しをし、各教室にチラシを貼って頂いている。また、進学ガイダンスに積極的に参加するなど、適正な方法で募集を行っている。 オープンキャンパスも秋までは、毎月開催しており、積極的に当校へ足を運んでもらいどのようなことを学ぶのか体験してもらっている。 HPに情報を公開している。 | 本校の魅力を伝えきれていない。 分かりやすいHP。 いろいろな媒体を使った広告ができていない。 | 学生の獲得方法を再度考える。オープンキャンパスと学校回りのみで大丈夫なのか。学校側の考えではなく、現実になが効果的で何が効果がないのか。現状把握をする。 |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 | 高校でのガイダンス、またオープンキャンパス等を利用し、教育内容、卒業後の進路等伝えている。 | 最初にどのような学校で、どのような授業を行っているのかをしっかりと説明することにより、入学後の退学者も減らせる。 | 学生生活がどのようなものか、想像できるよう説明を詳細に伝える。対面で伝えることも大切であるが、SNSを活用できるようにしていきたい。それを踏まえて、本校の魅力を確固たるものにしていきたい。 ガイダンス・オープンキャンパスにおいて、適正かつ積極的に行えているので、今後も続けていく。 |

(8) 財務

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|---------------------------|----|------------------------------|---|---|
| ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 3 | 学生数の変動が大きい為、財政基盤が大きく揺らいでしまう。 | 少子化による学生減少で、経済基盤が安定しているとは言い難い。学生獲得が大きな課題。 学校の老朽化も今後視野に入れておく問題。 | 学生募集が大きな課題。魅力ある学校づくりを行い、学生に選んでもらえる学校にすることで、財政の安定にもつながる。 |

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|---------------------------|----|---|---|--|
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 | 前年度の実績や事業案を踏まえて、収支の見通しを立てており、妥当なものとなっている。 | 年度途中の予算等を見通しをしっかりとて、必要なもの不要なものを見分けをはっきりつける。 | 学生減少を見越しての予算、収支計画を立てる。修繕費等、先々のことを考えて予算を組む。 |
| ・財務情報公開の体制整備はできているか | 3 | 理事会・総会において財務情報を示し開示している。 | HPでの開示も行うなど、情報公開はできている。 | 引き続き、情報公開を行う。 |

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|--------------------------------|----|--|--|--|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 | 法令については遵守し、適正に運営を行っている。 | 法令の見直しもその都度行っている。教職員への周知が低い部分もある。 | 全教職員に必要な法令について周知徹底する。 |
| ・個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか | 4 | 書類管理はしっかりと行われ、個人情報情報は、鍵のかかった書棚で管理している。パソコン上でも、パスワードをかけるなど、保護の徹底を行っている。 | 個人情報についての知識を全員がしっかりと持ち、うっかりと漏洩などが起こらないように十分に対策を取る。 | パソコンのセキュリティや書類の管理は、しっかりと行っている。また、各自が知識を深め、正しい個人情報の知識を理解する。 |

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|------------------------|----|--|--|---|
| ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3 | 年に2回は自己評価を行い、学内でそれぞれに意見を出し合い、学校運営改善に取り組んでいる。 | 毎年2回の自己評価を行うことで、自分達の学校運営を客観的に見ることができている。また、問題点も自覚することができる良い機会になっている。 | 自己評価後の課題を各自で理解し、改善できるように個人またグループで対策を練っていく。その場限りの評価で終わらないように次への繋げていくことが大切。 |
| ・自己評価結果を公表しているか | 3 | 評価結果を報告書に取りまとめて公表している。 | 自己評価の情報及び、学校関係者評価で出た意見をHP等で公開している。 | 報告書をまとめて、誰でもが見られるようにHPにアップしてるので、今後もそのように続けていく。 |

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価 | 現状の取組状況 | 課題 | 今後の改善方策 |
|----------------------------------|----|---|---------------------------------|--|
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 | 学生達にとっては、学校の中だけの教育になっている。将来を見据えて、課外活動を行う。 | 学生が活躍できる場があれば良い。地域貢献が十分にできていない。 | ボランティア参加などを行事に入れ、地域貢献の大切さを学ぶ機会を作る。インターンシップを取り入れる。サロン様への協力を仰ぎ、公共のイベントなどにももっと参加できるとよい。イベントの参加。地域貢献を目的とした活動を通して、地域から信頼される学校になるよう努力する。 |